



悩み? 聞くよ!

〜東京、東大阪の7人が答える〜

回答者 (パート2)

南武社長 野村 和史さん

のむら・かずし 青山学院大卒、父が創業した南武に61年(昭36)入社も会社が火事で全焼、外資系商社で活躍。84年に復帰し95年社長。エンジン製造などの金型用中子抜き油圧シリンダーで圧倒的シェア。66歳。

これからの中小企業は特許で武装しろという人と、特許なんか取っても役に立たないという人がいます。どっちが本当ですか。

(東京都、機械加工)

どっちも正しいです。特許情報を調べてまねする奴がいる以上、黙って商品を作っている方がいい、というのはひとつの考え方でしょう。うちも国内8件、米国で2件の特許を保有していますが、「日米で特許取得済み」とだけ書いて特許番号を入れません。少なくとも、悪い奴らが特許情報を調べるのだけは大変にしておかないとね。

そのうえで私が特許を重視するのは、中小企業が取引先の大企業と「対等」であるための条件だからです。大企業の技術部門から電話がかかってきて、「南武さんの特許だと気付かないで、同様の部品を外注に出しちゃったんですが…」と言いつつ、「以後、気を付けて下さいよ」と言いつつ「それでいいんですか」と聞くから「いいんです」と答える。巨大企業と「こういう会話ができると、ちょっとうれいいですね。アジア企業にまねされたら終わりじゃないか、という人がいるでしょう。でも、うちの製品は工場見学に来て一日じ

取得できれば 大企業と対等

っとながめても、なかなかまねできないんです。特許情報を見て理屈が分かってても、加工精度と品質、耐久性が違う。うちの製品は自動車のエンジン Casting とか、製鉄所の鋼板巻き取りだとか、故障が重大事故につながる工程で使われています。だからトラブルが起きたらお客さまに二度と使ってもらえない。特許と品質と耐久性が合わさって、初めて強い商品と言えるのだと思います。

お客さんのA社のために考えた技術を、B社もC社も使いたがる。これがいい特許です。まじめにモノづくりをしている中小企業なら、よりよい製品をより効率的に作る工夫すれば、そこに実需に基づいた特許技術が生まれるはずですよ。特許を取得する手間が大変と言う人もいますが、それはいい弁理士さんと付き合えばかなりカバーできますよ。

特許は役に立つ? 立たない?

(次回の回答者は東大阪のシナガワの品川隆幸社長です。このコーナーへの感想、回答者への質問は、J020003@tk y.nikkan.co.jp#6k)